

JA 全農 ET センターニュース平成 21 年 10 月号

ET センター北日本分場が岩手県滝沢村にオープンしました。今月号は千葉祐一分場長に抱負を語ってもらいました。

「平成 11 年 1 月、北海道上士幌町に全農 ET センターが設立され、高品質・高受胎率の受精卵を全国に提供することで生産者の信頼を得て、その供給個数は年々増加してきました。ただ需要に供給が追いつかずに更なる増産を要望され、平成 19 年 7 月新たに茨城県笠間市(当時岩間町)の全農中研施設内に ET センター笠間分場(現東日本分場)が建設された。両センターとも全国に凍結卵を供給するのはもちろん、そのセンター近郊に新鮮卵を供給することで地域の和牛または乳牛の改良に貢献してきた。そんな中、岩手にも ET センター分場を建設する構想が持ち上がり、平成 21 年 10 月 1 日に全農 ET センター北日本分場としてオープンすることになりました。供卵牛 100 頭で、採卵は原則として毎週月、水、金の 3 日行い、岩手を中心とした東北地域に新鮮卵を供給し、凍結卵は北海道の本場から一括で供給する方向にしております。9 月末時点でまだ工事は完了しておらず、供卵牛の導入は 10 月初頭で実際の採卵は 11 月から行う予定となっておりますが、今後の受精卵供給開始にあたり分場としての方針を述べさせていただきます。まず ET センターを各地域に設置する意味としては第一にその地域の生産基盤を作ることにあります。和牛繁殖農家の高齢化等で和牛生産基盤の弱体化が言われているところですが、ホルスタイン等に和牛卵を移植することで和牛子牛の増産と各地域の市場の活性化につなげたいと考えています。特に新鮮卵は凍結卵に比べて低価格なため宅配便等を利用して普及に努めたいと思っています。第二に東北各地域の和牛改良方針に沿った形で受精卵供給をして地域に根ざしたセンターを作っていきたいと考えています。そのため優秀な供卵牛に東北各県の県有種雄牛や改良性のある民間種雄牛を交配して受精卵を供給することを柱の一つとしていきます。特に生産者から精液を預かって受精卵でお返しする「預かり生産方式」を推進していきたいと思えます。第三に信頼性のある受精卵の供給です。全農ダイレクト凍結法は受胎性が高いと皆さまに定評のあるところですが、そのほかに供卵牛の飼養環境から、受精卵の取扱・品質チェックまで妥協を許さずに行うことで常に高品質のものをお届けし、高受胎性を追及していきたいと思っています。全農 ET センターでは常に高受胎性を追求して研究がおこなわれていますが、その成果を現場に活用していきます。皆様に信頼され、活用していただき畜産・酪農の生産基盤の確立と所得向上のお役にたてるように努力・邁進して行きたいと考えています。」

北日本分場オープンキャンペーンとして北海道の本場および東日本分場(旧笠間分場)を含む 3 場にて今年 10 月 1 日より預かり精液により製造した凍結受精卵価格を大幅に下げて供給することが決定しました(22 年 3 月末日までにお預かりした凍結精液を対象)。詳しくはお近くの各センターに直接お問い合わせください。

全農 ET センター(北海道) TEL : 01564-2-5811 全農 ET センター東日本分場(茨城県) TEL : 0299-37-6115 全農 ET センター北日本分場(岩手県) TEL : 019-688-7361